

お手軽VPNサービス「GMOどこでもLAN」でファイル共有を活用しよう

会社から自宅のパソコンにアクセスしてアプリケーションを操作したり、外出先から会社のパソコンにあるファイルを取り出したりしたいと考えたことがある人は多いはず。それを手軽に実現するサービスがGMOが提供する「GMOどこでもLAN」だ。

GMOどこでもLANを使うと、接続したパソコン同士が、あたかも直接LANケーブルで接続されているかのように見えるため、ファイル共有やウィンドウズXPのリモート

デスクトップ機能を使ったりリモートコントロールなど、LANで実現しているのと変わらない環境をインターネットでも実現できる。

GMOどこでもLANは、固定IPアドレスである必要はないし、ファイアウォールがあってもかまわない。また常時接続するのではなく、使いたいときだけ接続するといった使い方もできるため、モバイルからの利用にも向いている。まさに、どこでも簡単にLANを構築できるサービスなのだ。

利用料金

グループ(HUB)

初期費用: 5,250円 / 月額料金: 2,100円

アカウントライセンス

5ユーザー: 1,050円 / 10ユーザー: 1,890円
15ユーザー: 2,520円 / 20ユーザー: 2,940円

動作環境

OS: ウィンドウズ2000 SP4、ウィンドウズXP SP1、
ウィンドウズ2000サーバー SP4、ウィンドウズサーバー2003以上

注意事項

ファイアウォールの設定などで、httpsでの通信ができない場合にエラーが表示される。

9000番から9099番ポートの通信が許可されていない場合、エラーが表示される。



月額3,150円のVPNサービスが登場

「GMOどこでもLAN」で お手軽 ファイル共有のススメ

<http://www.dokodemolan.com/>

1 月額3,150円の低料金だから 個人でも気軽に利用できる

月額3,150円(利用料2,100円/月+1,050円/5ユーザーアカウントライセンス)からリーズナブルな価格設定。

2 申し込んだその日から、 すぐに使い始められる

クレジットカード払いなら、アカウントは即座に発行。思い立ったらすぐに使い始められる。

3 管理はおまかせだから、 専門知識は不要

すべての設定はウェブからできるし、アカウントとパスワードを入力するだけですぐにつながる。管理もおまかせ。

4 VPNルーターなどの専用機器は 一切不要

必要なのはインターネットに接続する回線とインターネットエクスプローラ。クライアントソフトはActiveXで自動的にインストールされる。

5 無線LANやAir H²を利用した 接続もOK

常時接続は必要はない。接続/切断しても問題ないため、無線LANやAir H²などのモバイル環境でも利用できる。

ASP型VPNサービス「GMOどこでもLAN」は、いったいどのようなサービスなのか、次ページでその仕組みと導入方法を説明していこう。



既存のVPNサービスとは何が違う？ GMOどこでもLANのネットワークの仕組み

サーバーはGMOが提供

つなぐだけでVPNを構築できる

GMOどこでもLANは、インターネットを介してネットワーク同士を仮想的に繋げるVPNサービス的一种。一般的にVPNを使うには、VPNに対応したルーターやサーバーが必要になるが、GMOどこでもLANはGMOのネットワークを利用するASP型サービスのため、ユーザー側で用意しなければならないものはパソコンとインターネットに接続できる環境くらいなのだ。

GMOどこでもLANのネットワークの中心となるのは「リンクサーバー」という機器。リンクサーバーはインターネット上に置かれ、サービスに加入した管理者ごとに「グループHUB」と呼ばれる機能を提供する。管理者はウェブページからアクセスできる「コントロールパネル」にログオンして、グループHUBに接続するユーザーのために、ユーザーIDとパスワードを発行しておく。

接続できさえすれば利用できるため、ほとんどの環境でサービスを使うことが可能だが、「動作確認ページ」も用意されているので、サービスの契約をする前に確認しておくといいたいだろう。また、動作しない場合は、ネットワーク管理者に相談してみよう。

ローカルIPが割り当てられて

あたかも直接接続されている環境に

GMOどこでもLANでは、グループHUBに接続するとグループHUBからローカルなIPアドレスが割り当てられる。つまり、「インターネットのIPアドレス」と「GMOどこでもLAN」の2つのIPアドレスを持つことになるわけだ。また、GMOどこでもLANに接続したパソコンは、同じグループHUBに接続されているほかのパソコンとの通信が可能になる。つまり、別の拠点にいるにもかかわらず、グループHUBという仮想的なHUBによって、あたかも同じLAN

に接続しているように見えるわけだ。

なお、GMOどこでもLANでの通信は、実際にはインターネットに流れていくことになるが、内容は暗号化され、128-bit電子署名が付くため盗聴される心配もない。

プロトコルは何でも通る

使い方は工夫次第

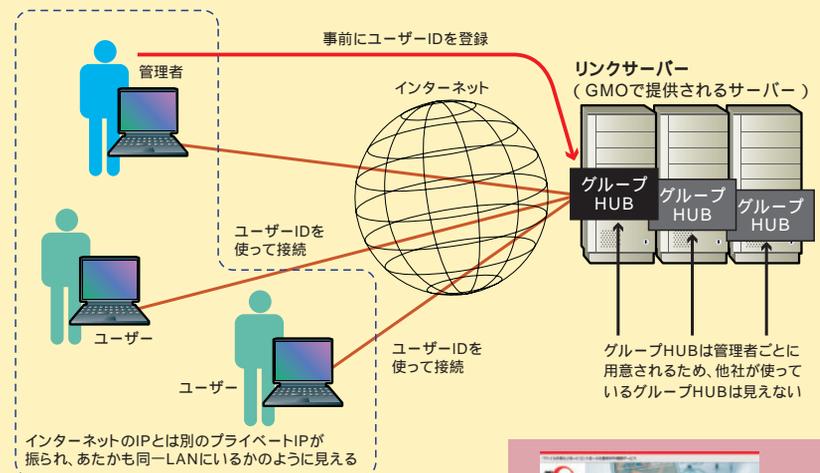
ここまで説明してきたように、グループHUBで接続されたパソコン同士は、あたかも同一LANに接続されているように見えるため、ウィンドウズのファイル共有やプリンター共有はもちろん、ウィンドウズXPのリモートデスクトップも動作するし、動画や音楽のストリーミング再生も可能だ。また、ウィンドウズサーバーにも対応しているため、ウィンドウズサーバーにGMOどこでもLANを導入し、サーバー環境を構築して、クライアントからサーバー機能を使わせることもできる。

インターネットエクスプローラでグループHUBに接続

GMOどこでもLANを利用するには、「クライアントツールページ」というユーザー用のログオンページにアクセスし、接続ソフトをパソコンにインストールする必要がある。接続ソフトはActiveXコントロールで提供されるため、インターネットエクスプローラでクライアントツールページにアクセスし、自分のユーザーIDとパスワードを提示するだけでOK。自動的にインストールされ、複雑な設定はまったく必要ない。

GMOどこでもLANはグループHUBに

ネットワーク図



GMOどこでもLANの申し込みの流れ

管理者IDが発行される

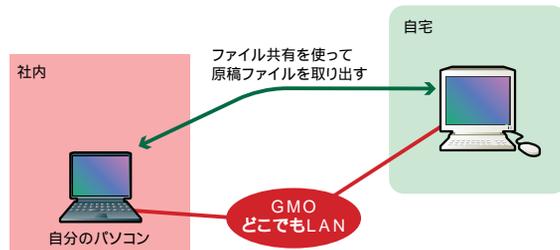
「コントロールパネル」からログオンして、サービスを利用するユーザーを登録する

サービスを利用するユーザーは、インターネットエクスプローラで「クライアントツール」ページにアクセスする。すると自動的にActiveXコンポーネントのインストールが始まる。インストールが終われば、サービスを利用できるようになる

20日間の無料トライアルサービスも提供されているので、まずはこのトライアルサービスを使ってGMOどこでもLANのサービスを試してみよう。

1 会社のパソコン内にある原稿を編集する

「家で仕事をしようと思ったのに、肝心のファイルをコピーしてくるのを忘れた!」なんてことは日常茶飯事。そんなとき、会社のパソコンをGMOどこでもLANに接続して、必要なファイルが入ったフォルダーの共有設定をしておけば、家のパソコンからアクセスしてファイルの読み書きができる。これなら、わざわざノートパソコンやメモリーカードでファイルを持ち運ばなくてもよい。手ぶらで出勤も夢じゃない!? FTPでも同様のことは可能だが、サーバーの設定などの手間はかかるし、GMOどこでもLANの通信は暗号化されるのでFTPよりも安全なのだ。さらに、会社のネットワークプリンターを共有しておけば、自宅からそのプリンターを利用できるため、FAX代わりにそのプリンターを使うなんてこともできるのだ。



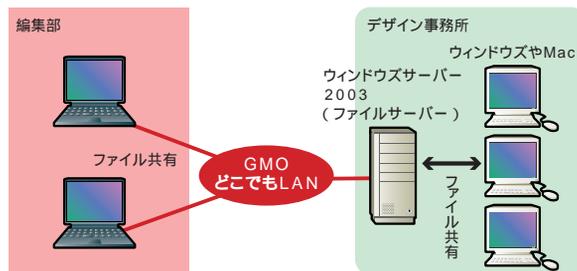
導入のポイント

- ・会社のパソコンの電源を入れっぱなしにし、GMO どこでもLANに接続しておく
- ・会社のパソコンのファイル共有を有効にしておく

2 編集部とデザイナーの事務所でDTPサーバーを共有する

GMOどこでもLANは、当然ながら接続先のパソコンの電源が切られるとリモートからの接続ができなくなってしまう。ビジネスでファイル共有を利用するなら、GMOどこでもLANをウィンドウズサーバー2003マシンに導入して、そのサーバーマシンをファイルサーバーとして運用しよう。DTPではMacを使うことが多いが、ウィンドウズサーバー2003ではAppleTalk共有ができるというメリットもある。

現在のところGMOどこでもLANはMacには対応していないため、Mac内のファイルを直接共有することはできないが、企業間でファイル共有をするときはファイルサーバーを設置したほうが複数人でデータの共有ができるというメリットがあるため、特に不便に感じることはないだろう。



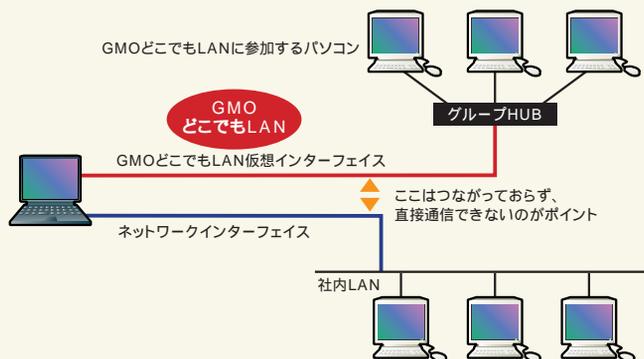
導入のポイント

- ・ウィンドウズサーバー2003にGMO どこでもLANを導入
- ・上図では会社からの接続を想定しているが、自宅からデザイン事務所のサーバーに接続することも可能だ



セキュリティは確保されているのか

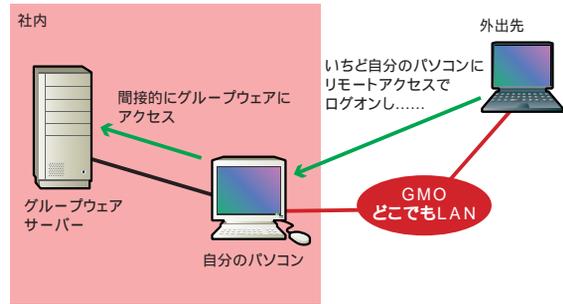
GMOどこでもLANでは、右図のようにグループHUBへの接続とLANへの接続は切り離されているため、第三者によって直接社内に侵入される恐れはない。ただしウィンドウズXPのリモートデスクトップを使うと、間接的に社内LANにアクセスできてしまうので、GMOどこでもLANをインストールしたパソコンには、きちんとパスワードをかけておこう。なお、GMOどこでもLANをインストールしたパソコンがウイルスに感染していると、アクセスした社内LANにもそのウイルスが感染する可能性がある。これは当たり前の話ではあるが、ウイルス対策ソフトのインストールは必須だろう。



3 編集部のグループウェアを外出先から更新する

外出先で「あの日のスケジュールは空いていたっけなあ」なんて頭を悩ますことは多い。グループウェアはセキュリティの関係上、外部からアクセスできないようにしている場合が多いが、ウィンドウズXPのリモートデスクトップを使って、いったん社内の自分のパソコンにログオンし、そこから間接的にグループウェアにアクセスすれば問題なく利用できる。また、グループウェアを共有しておくことで、リモートで接続しなくても利用することが可能だ。どちらの場合も、社内から利用しているのと同じことになるため、すべての機能を使用できる。同様の方法でメーラーを起動してメールを読み書きすることも可能だ。

もし、モバイルでの利用でリモートデスクトップの動作が鈍いようなら、色数を減らしてみよう。さほど気にならなくなるはずだ。



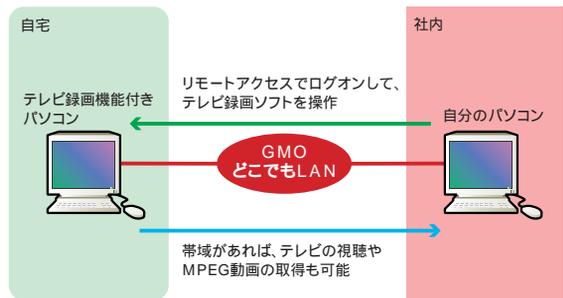
導入のポイント

- ・ウィンドウズXPのリモートデスクトップを利用するか、グループウェアを共有設定する
- ・回線速度が遅い場合は、リモートデスクトップの色数を落とす

4 会社から自宅のテレビパソコンを操作して番組の予約をする

自宅のパソコンがテレビ録画機能付きなら、会社から自宅のパソコンにアクセスし、アプリケーションを操作して録画予約ができる。これなら「あのドラマ録画予約するのを忘れた!」なんてときも安心だ。パソコンからコントロールできるハードディスクレコーダーやDVDレコーダーであれば、いったん自分のパソコンにリモートデスクトップでログオンしてから間接的にコントロールすることもできる。

また、録画した番組のMPEGファイルがあるフォルダーのファイル共有を有効にしておけば、ファイルを会社のパソコンにダウンロードして視聴するなんてことも可能だ。ブロードバンド環境さえあれば同様のことができるので、出張先のホテルでのんびり視聴するなんてことも。



導入のポイント

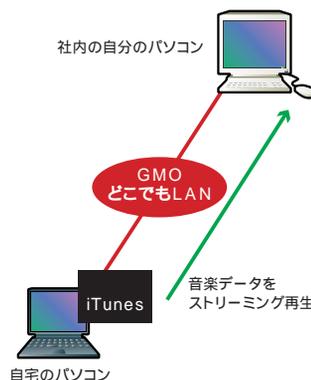
- ・録画だけならリモートデスクトップで簡単
- ・ADSLやFTTHなどのブロードバンド環境があれば、外出先からの視聴もできる

5 自宅のパソコンのiTunesにアクセスして会社で音楽三昧

アップルのiTunesはLANで接続された他のパソコンからも音楽をストリーミング再生できる機能を持つ。GMOどこでもLANは、LANと同じ環境を実現できるため、iTunesを使うことで、会社においても、自宅のパソコンに保存された音楽を聴くことができるのだ。音楽データは映像データと比べて帯域が少なく済むから、自宅がADSLなら十分実用的に使える。

導入のポイント

- ・iTunesの機能を利用してストリーミング再生
- ・ADSLやCATV回線でも十分実用的



会社から自宅で録画したテレビ番組を見る

GMOどこでもLANを使って、会社と自宅のパソコンの間でファイル共有をしています。最近は見たいテレビ番組はすべて自宅のデスクトップパソコンで録画しているのですが、録画した動画ファイルを編集部で深夜残業をしているときに息抜きのためにコッソリ見たりしています。ほかのVPNサービスや製品よりも導入が簡単で、常時接続の環境でもセキュリティ面で安心して使えるのが決め手でした。

インターネットマガジン編集部
青山祐輔





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp